

18歳市民となるために…NIEを通して

兵庫県立西宮今津高等学校 校長 中西 朗
教諭 銘苅 千栄子

1 総合学科の学びとNIE

本校は総合学科に改編して11年目を迎える。1年次「産業社会と人間」、2年次「総合的な学習の時間」、3年次「課題研究」において、「探究型」の学びを進めてきた。テーマを設定し⇒調べ⇒考え⇒まとめ⇒発表する、それぞれの過程において、具体的な「技術」を身に着ける様々な取り組みがなされているが、「探究型」の学びの核は「問う力」を育てるところにある。そして、18歳選挙権が実現された現在、「問う力」を持ち、社会と向き合い、社会と関わる能動的な市民としてのシチズンシップを育てたいと考え、昨年度から、社会へ通じる窓である新聞を学ぶ、NIEに取り組むこととなった。

本年は2教科の実践を紹介する。一つはNIEの一環として組み立てた学校設定科目「国語の世界」、二つ目は新聞を使った「保健」の授業実践である。「国語の世界」は昨年度の実践を踏まえ、少しアレンジを加えて行ったが、基本的には昨年と同じ流れである。

2 実践報告

(1) 学校設定科目「国語の世界」

本校では、3年次対象に学校設定科目「国語の世界」が設けられている。「国語の世界」は、教科書や問題演習を離れて、ことばや文章を楽しむ・味わう・考えることをねらいとして、毎年担当者が授業展開を独自に立てて行っている。

本年度は69名が受講し、3人の教師で3分野を担当した。その1分野としてNIE講座を3クラス(各生徒23名)2単位、前期・後期で実施した。

●第1回NIE入門

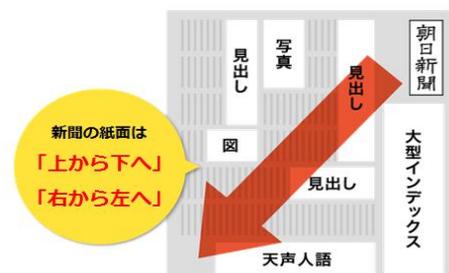
1-①NIE入門

(i) NIEの目的、(ii)新聞の特性 (iii)紙面の構成 (iv)他メディアとの比較を行い、新聞の持つ特性を知るガイダンスを行った。

(i)～(iii)については、パワーポイントで、教師による概説を行い、その後(iv)他メディアとの違いを班で討議しその後全体発表、最後に教師の解説とまとめを行った。

導入として、新聞の役割は「炭鉱のカナリア」であることを話した。昨年本校に講師として来ていただいた明石道夫さん(時事通信社 神戸総局 総局長)が語ってくださった言葉であり、生徒たちの心に残る言葉であったが、まさに本校のNIEの目的を的確に言い表していると感じ、この言葉から本年のNIEを始めることとした。

新聞記事の基本構成



紙面の構成説明スライド

1-②紙面の分析

最初に、朝日新聞と読売新聞の同日の第1面について、紙面の構成の分析をした。「アタマ」「カタ」「ハラ」にどのような記事が割り振られているかを確認し、それぞれの見出しと内容を、各自でまとめた。次に、各自が持ってきた新聞1紙から、気になる記事を切り

抜き、見出し、リード文、内容をまとめ、新聞記事の構成をつかむ作業を行った。

また、地方新聞のおもしろさに気づいてほしいと思い、本年度は全国紙と神戸新聞の同日の新聞の1面の比較と、オスプレイをめぐる琉球新報の報道を読み、地方紙の役割とは何かについて、短時間の班討議とまとめと発表を行った。

新聞を開いて みよう！



オスプレイ「墜落」を報じる琉球新報1面

●第2回 新聞は同じではない…社説を比べよう！

社会への視点を持つことをねらいに、社説を比較し、多面的に考えることを意図した。3年次の生徒たちにとって自分の問題として考えやすい「奨学金」について、2-①対照的な主張を持つ朝日新聞と産経新聞の社説を用い、主張と根拠を分析した。

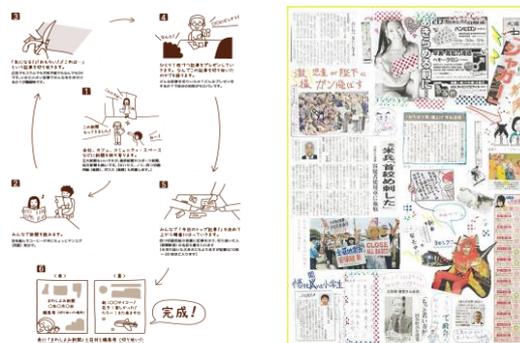
2-②その後、班に分かれ意見を交換し、班ごとに、それぞれの新聞の主張に対する意見を発表した。

●第3回 新聞を楽しもう…まわし読み新聞

「まわし読み新聞」とは、各自が持ち寄った「面白い」記事をみんなで共有する知的な「遊び」である。やり方は、①各自新聞を持ち寄り、②じっくり読んで、みんなに紹介したい記事を選ぶ。③次に4～5人ほどの班を作り、それぞれが記事について、どこが面白

いのかをプレゼンテーションする。選ぶのは、ニュース記事だけではなく、広告や、ミニコラムでも何でも構わない。大事なのはむしろ自分が何に「面白い！」と思ったのかを伝えるプレゼンの力だ。④次に、班で意見を交わし、今日のトップ記事を選び、次にサブ記事というように、順に張っていき、班1枚の新聞を作る。⑤最後に、各記事に見出しとコメントや感想を書き込み完成となる

ニュースを知るといふ、新聞の一般的な読み方とは異なるかもしれないが、新聞という媒体が持つ豊かさに触れる楽しさがあった。何より、この記事をこういう視点で見るとか、という見方の発見に気づかされた。



「まわし読み新聞」をつくる

●第4回 マイオピニオン

新聞を読み意見を持つ、という最も基本的な取り組みを行った。新聞を1紙持参し、ゆっくり読んでその中から気になった記事を切り抜き、意見をしっかりと書く取り組みを2回程行うことができた。

●第5回 この人の生き方がいい！

新聞にはさまざまな人が紹介されている。有名人から市井の人まで、多様な生き方や価値観に触れることができる。第4回は出来事ではなく、人に焦点を当てた。

4-①1週間の新聞の中から「この人の生き方がいい」と感じた記事を切り抜いてくる。4-②ワークシートに貼り、短い紹介文と、感想を書く。4-③相互交換しさらに感想を書く、という流れで行った。

●第6回 新聞に投書しよう！

新聞は読むだけでなく「双方向性」を持ったメディアであることを知るために、読者投稿欄から若い世代の投稿をプリントにして、まず読み、次に朝日新聞と毎日新聞に投稿した。それぞれの視点からとらえた高校生らしい文章が書きあがった。

●第7回 ひょうご新聞感想文コンクールに応募しよう！

新聞から社会への視点を開くことをねらいにここまでのプロセスを踏んできたが、次は自分と社会との関わりを考えるために、「新聞感想文コンクール」に応募することに取り組んだ。記事を読み自分の経験から意見をまとめることは、新聞をより身近なものとしてとらえられると同時に、社会の中での自分を考えるきっかけになってほしいというねらいである。7-①2015年度の優秀作品と「こくさいこどもフォーラム岡山」の高校生懸賞論文最優秀賞作品を読み、自己と関わる視点で書くことを指示し、7-②下書き、7-③清書を仕上げて応募した。

●第8回 卒業新聞をつくろう！

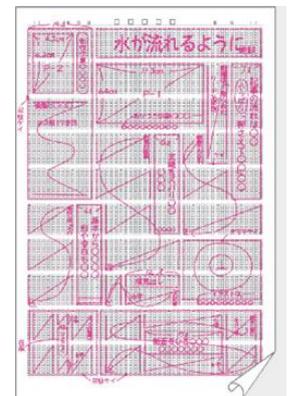
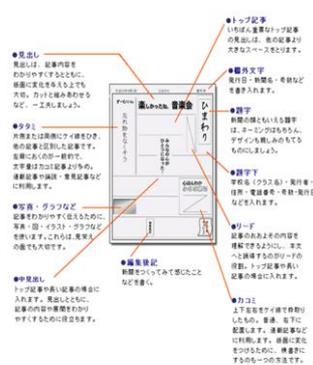
新聞を「知る」「意見を持つ」「楽しむ」から次の段階として新聞を「作る」に進んだ。

前年度は、「山月記新聞」を作ったのだが、やはり「架空の事件」であることと、もう少

し身近な「社会性を持った取り組みにしたい」という考えから、本年度は「卒業新聞」を作ることにした。生徒にとって身近な「社会」とは、3年間学んだ高校生活と、それを支えてくれたクラスや部活動の友人や先生たちである。3年間を「思い出」だけではなく、少し「客観的」に見つめてほしいという願いもあった。

8-①班分け

趣旨を説明し、各クラス15名前後がこの授業を選択しているの、1班を3人から4人で班を作り、編集長を決める。記事内容の検討を始める。



基本の割り付け

8-②割り付けを学ぶ

いくつかの新聞コンクール優秀作を見本として示し、さらに基本的な割り付けを押さえた。

8-③編集会議

修学旅行・体育祭・文化祭といった定番の行事だけでなく、クラスの友人たちへのインタビュー、担任の先生への寄稿文の依頼、食堂のスタッフさんへの取材など、アイデアを出す。また、新聞の名前とその題字を考える作業を行った。タブロイド判2面の記事を考えるのはなかなか大変な作業だった。

8-④割り付け

おおよそのレイアウトを決めた後、タブロイド判割り付け用紙に割り付けていく。「アタマ」「カコミ」、「タタミ」や写真やイラスト、見出しを考えていく作業は、慣れないと難しく、あまりこだわらなくてもよいと指示する。



「卒業新聞」割り付け作業

8-⑤取材・原稿書き

いよいよ新聞を作っていく作業が始まった。クラスアンケートや、インタビューも進んでいく。校長先生への原稿依頼に行った班もあった。印刷はモノクロだが、2月の「総合学科発表会」で実物を展示するので、文章だけでなく、イラストなどカラフルで見やすい紙面作りを工夫するように指示した。

8-⑥完成・印刷

授業自体は1月で終了したが、発行は卒業式とした。1クラス3班～4班の新聞が完成し、それをクラス人数分印刷して、卒業式に配布した。卒業アルバムと共に、クラスだけの新聞は、担任の先生や生徒たちのいい記念になったようだ。

(2)「保健」・「時事英語」でのNIE

1, 2年次の「保健」では、新聞を活用した取り組みを2012年から継続して取り組んでいる。健康や医療に関する記事を各学期3記事ずつ(合計9記事)切り抜き、ワークシートに取り組む。シートは①書かれている内容、②その事象の背景と原因、③キーワード、④今後の見通し、⑤書き手の伝えたいメッセージ、⑥自分で調べたこと、の6項目についてまとめるように作られている。

また、3年次に置かれている、学校設定科目「時事英語」では、英字新聞を使った学習に取り組んでいる。毎週、英字新聞から1記事が課題として出され、キーワードを調べて、

要約を作る。さらにチームで要約のすり合わせを行いまとめあげる。次に1チームが代表として発表するというサイクルを、年間を通して行っている。国際理解を深めていく取り組みを行っている。

3 成果と課題

「普段新聞を読む習慣のない生徒たちが多く、新聞に構造があること、各新聞にカラーがあること、地方紙の意義など、新聞について初めて知ることができたように思う。

本年度は、新聞の記事から社会を考えるとというより、まず「新聞になじむ」ことをねらいとした。新聞を身近なものとして感じてほしい、じっくり考えて読む段階は次でいいと考えたのだが、そのねらいは十分に達成できたとは言えない。

また、個々人で取り組む単元と、班活動を組み合わせる授業を組み立てたが、それぞれに課題があった。個々人での取り組みの場合は、相互に発表し評価する機会をもっと増やすべきだったし、班活動では、中心になる生徒に引っぱられてしまい、意見を交換し協同するという動きが十分にできなかった。

4 まとめ

新聞を通して、18歳市民を育てるという目標を挙げて取り組んできた。確かに、今まで新聞という媒体に触れたことのなかった生徒たちにとって、新聞の意義は伝えられたと思うが、政治や社会の窓としての新聞の力を知り、自分の意見を持ってクリティカルに読むまでには至らなかった。また、新聞を読み、考える前提となる基本的な知識が少ないと感じた。かつての、新聞を読むことが社会人としての基礎知識の修養になっていた時代とは異なり、彼らの情報にアクセスする方法は多様だが狭い。新聞の衰退が言われて久しいが、改めて新聞の持つ、一覧性や、分析性など、新聞の面白さを知ることができた。